

日本語・日本文化教育センター カリキュラム・ポリシー

同志社大学日本語・日本文化教育センターは、本学に在学する全ての外国人留学生に対する日本語・日本文化教育を担っている。本センターでは、さまざまな外国人留学生に対して、以下の科目およびプログラムを提供している。

- 1.各学部・研究科所属留学生（正規学生・特別学生）に対する日本語・日本文化教育科目
- 2.大学や大学院に進学を希望する私費留学生のための留学生別科プログラム
- 3.外国協定大学からの交換留学生および日本語・日本文化教育センターとの学部間協定に基づく受入留学生に対する日本語・日本文化教育プログラム
- 4.日本政府国費留学生のための日本語予備教育プログラム
- 5.日本政府国費留学生のための日本語・日本文化研修留学生プログラム
- 6.本学にセンターを設置している海外大学プログラム
 - AKP同志社留学生センタープログラム
 - チュービンゲン大学同志社日本研究センタープログラム
 - スタンフォード日本センタープログラム
 - 京都アメリカ大学コンソーシアムプログラム
- 7.各種短期留学プログラム

なお、上記6および7に属するプログラムは、各センターまたは派遣元大学等が独自の教育計画ならびにカリキュラムに基づいてプログラムを実施しているため、ここでは言及しない。

1. 各学部・研究科所属留学生（正規学生・特別学生）に対する日本語・日本文化教育科目
 - ・外国人留学生が一日も早く本学での生活に慣れ、日本語・日本文化を深く学びながら、学習や研究の実をあげることができることを目的に、日本語科目および日本文化教育科目を設置している。
 - ・海外に向けた日本語・日本文化教育の発信および相互的な国際理解の促進を図るために、日本人学生と外国人留学生と一緒に、日本文化や伝統、歴史などを学べる科目も提供している。
 - ・カリキュラムは、日本語科目、日本語演習科目、日本語事情科目、国際事情科目で構成される。
 - ・本センターが提供する日本語科目および日本文化教育科目は、留学生の所属する学部が設定する上限に従って、振替単位に異同がある。
2. 主に大学や大学院に進学を希望する私費留学生のための留学生別科プログラム
 - ・同志社大学をはじめ、日本国内の大学や大学院に進学する私費留学生を対象に、日本語を教授し、日本文化に関する理解の深化を目指すことを目的にしている。
 - ・修業年限は1年間で、セメスター制を採用していることから、春学期（4月～9月）、秋学期（9～3月）のいずれの学期からでもプログラムを開始することができる。
 - ・カリキュラムは、日本語の基礎能力（聞く・話す・読む・書く）をレベル別に総合的に習得する科目と、読解・語彙・文章表現・口頭表現の技能別科目から構成される日本語科目、日本語能力試験・日本留学試験および大学受験等に主眼をおいた演習科目、さらには、日本の言語・芸術・思想・宗教・法と政治・歴史・社会・生活と文化ならびに異文化コミュニケーションなどに関する科目からなり、現代日本語や日本事情全般について幅広く学べるカリキュラム構成である。
 - ・出願資格として、「原則として日本語を1年以上学習した者」と定めているが、入学者の日本語能力にはかなりの差があり、同じクラスで授業を行うと、学習に無理が生じる。そこで、1人ひとりの能力により「9段階（初級前期・初級後期・初中級・中級前期・中級後期・中上級・上級前期・上級後期・超上級）」に分け、きめ細かで丁寧な指導が可能となるよう配慮している。どの学習段階に相当するかは、学期の初めに行うプレースメントテストによって決定する。

〈修了要件〉

 - (i) 入学直後の学期の学習段階がⅠからⅦの学生
 - 一年間に20単位以上の単位（ただし、そのうち日本語科目から10単位以上）を修得した場合、修了証書を授与している。
 - (ii) 入学直後の学期の学習段階がⅧ以上の学生
 - 科目の種類を問わず、1年間に20単位以上を修得した場合、修了証書を授与している。
 - ・提供している科目は次の通りである。日本語科目（各学期に1～9の学習段階ごとにそれぞれ10～11科目）、日本語演習科目（日本語学習段階ごとに受講制限）、英語演習科目、日本事情科目（一部の科目は英語、中国語、コリア語で開講）、国際事情科目（一部の科目は英語で開講）。
 - ・海外に向けた日本語・日本文化教育の発信および相互的な国際理解の促進を図るために、日本人学生と外国人留学

生と一緒に、日本文化や伝統、歴史などを学べる科目も提供している。

3. 外国協定大学からの交換留学生および日本語・日本文化教育センターとの学部間協定に基づく受入留学生に対する日本語・日本文化教育プログラム
 - ・日本語能力を伸ばし、日本事情や日本文化に対する関心を深めるために、外国協定大学からの交換留学生および日本語・日本文化教育センターとの学部間協定にもとづく受入留学生を1年間（半年間の受け入れも可）受け入れている。
 - ・ Semester制を採用していることから、春学期（4月～9月）、秋学期（9～3月）のいずれの学期からでもプログラムを開始することができる。
 - ・ カリキュラムは、日本語の基礎能力（聞く・話す・読む・書く）をレベル別に総合的に習得する科目と、読解・語彙・文章表現・口頭表現および文法の技能別科目から構成される日本語科目、日本語能力試験に主眼をおいた演習科目、さらには日本の言語・芸術・思想・宗教・法と政治・歴史・社会・生活と文化ならびに異文化コミュニケーションなどに関する科目からなり、現代日本語や日本事情全般について幅広く学べるカリキュラム構成となっている。
 - ・ 出願資格として、「原則として日本語を1年以上学習した者」と定めているが、入学者の日本語能力にはかなりの差があり、同じクラスで授業を行うと、学習に無理が生じる。そこで、一人ひとりの能力により「9段階（初級前期・初級後期・初中級・中級前期・中級後期・中上級・上級前期・上級後期・超上級）」に分け、きめ細かで丁寧な指導が可能となるよう配慮している。どの学習段階に相当するかは、学期の初めに行うプレースメントテストによって決定する。
 - ・ 日本語学習を主目的とする学生を対象にした《集中コース》、日本語学習を主目的としない学生を対象にした《選択コース》を設け、全てのレベルにおいて、自由選択可能な柔軟なカリキュラムとしている。
 - ・ 提供している科目は次の通りである。《集中コース》の日本語科目（各学期に1～9の学習段階ごとにそれぞれ10～11科目）、《選択コース》の日本語科目（各学期に1～9の学習段階ごとにそれぞれ2～7科目）、日本語演習科目（日本語学習段階ごとに受講制限）、英語演習科目、日本事情科目（一部の科目は英語、中国語、韓国語で開講）、国際事情科目（一部の科目は英語で開講）。
 - ・ 海外に向けた日本語・日本文化教育の発信および相互的な国際理解の促進を図るために、日本人学生と外国人留学生と一緒に、日本文化や伝統、歴史などを学べる科目も提供している。
 - ・ 交換留学生および日本語・日本文化教育センターとの学部間協定に基づく受入留学生がある一定の日本語レベル以上である場合、各学部が提供している科目も履修できる。
 - ・ グローバル教育センター生を対象にした日本語科目も提供している。
4. 日本政府国費留学生のための日本語予備教育プログラム
 - ・ 日本語の学習経験のない日本政府国費留学生（主に大使館推薦による大学院レベル留学生／研究留学生）を対象にした日本語予備教育を実施している。
 - ・ カリキュラムは、入門レベルの日本語科目、日本語・英語演習科目、講義形式の日本事情科目、国際事情科目で構成されている。日本語科目は日本語のひらがなの導入からはじまり、初級レベルの日本語力を身につけることを目的にしている。
 - ・ 予備教育期間の半年の間に、日本語科目10単位以上および日本語・英語演習科目、日本事情科目、国際事情科目より3単位以上、合計13単位以上の単位を修得した場合、修了証書を授与している。
5. 日本政府国費留学生のための日本語・日本文化研修留学生プログラム
 - ・ 海外の日本語関係の大学・学科等に在籍する学部生を対象にした日本政府国費留学生に、9月から1年間の日本語、日本事情、日本文化に係る専門研修を提供している。
 - ・ カリキュラムは、日本語科目、日本語演習科目、日本事情科目、国際事情科目で構成されている。
 - ・ 学習レベルは、初級レベルから超上級レベルまでの9段階に分かれており、どの学習段階に相当するかは、入学時に行うプレースメントテストによって決定する。
 - ・ 研修期間を終了した日本語・日本文化研修留学生には、期間修了書「学修証」を授与している。
 - ・ 演習クラスおよび論文指導クラス、文化体験クラスを提供し、きめ細かで丁寧な指導を行なっている。